



196号

2014 / 9 / 1

日中文化交流市民サークル「わんりい」  
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方  
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100  
<http://wanli-san.com/>  
Eメール:[wanli@jcom.home.ne.jp](mailto:wanli@jcom.home.ne.jp)  
◆「わんりい」HPのアドレスが上記になりました。

8月3日16時30分、ルーディエン云南省昭通市魯甸で6.5級地震が発生し多くの被害を受けました  
地震による犠牲者の方々を哀悼し、現地の一刻も早い復興を祈ります  
(関連記事 p20～p23)



写真提供：日本雲南聯誼協会

### 「わんりい」196号の主な目次

北京雑感(87)月餅商戦	2
諺・慣用句(32)「自縄自縛」	3
媛媛讲故事(66)「十五貫」VI	4
城市めぐり(35)「揚州市」Ⅲ	6
詩人尹世霖の童詩の世界⑤	9
「正倉院展」唐代を想う	10
2014四川省&青海省 高原花の旅	12
外国語習得法④外国語を学ぶポイント	14
中国の笑い話18	15
バルト3国を旅して	16
スリランカ(80)象の孤児院	18
雲南省昭通市魯甸大地震・直後の現地報道写真	20
地震復興支援のカンパのお願い	22
新華社通信雲南支局・記者の手記「被災地を照らす明月」	23
「わんりい」掲示板	19・24



今年の中秋は9月8日です。丁度その頃は、中国を旅行中の予定ですから、今年の中秋商戦が、今迄とどう変わったかこの目で見るチャンスだと思い、楽しみにしています。

皆さんもご存知のように、習近平主席は綱紀粛正をはかるため、汚職の追放と、公務員の接待自粛を呼びかけています。汚職の追放では、前政権の最高幹部の一人が逮捕されたり、地方政府の高官や軍隊の幹部も逮捕、あるいは取り調べ中とのニュースが流れたり、汚職に対するかなり厳しい姿勢を見せて、一般庶民の共感を得ているとの報道がしきりです。

公務員の接待自粛もかなり浸透して、ホテルの宴会場や高級レストランの宴会が激減し、特に高級食材の利用がパツパツ止まってしまって、レストラン業界は悲鳴を上げていると報道されています。接待の中には物品の贈答も入るようです。

毎年、中秋に行われている月餅の贈答も、自粛の対象で、去年あたりから様相が変わって来たと言われます。以前は、中秋の1ヶ月ほど前になると、有名菓子店や高級レストランの前の歩道に、赤い布で覆ったテーブルが置かれ、様々に意匠を凝らした缶や木箱に詰められた月餅が並びます。そして、そのお値段も特筆すべきものでした。

私が初めて月餅の売出しを見た2002、3年頃は、北京の物価が安く、日本円に対する元の価値も低かったため、日用品は信じられないような値段でした。品物はみな1斤(500g)いくらと表示され、量り売りをしていました。お菓子等も、表示は1個の値段かと思い、いくつか注文すると、それを秤にかけて、その重さに表示価格をかけるので、実際は随分安くなります。改めて「値段の表示が1斤単位で、量り売りなのだ」とその安さに驚きました。そして、何だか凄くリッチになった気がするのです。

その同じ時代に、月餅だけは値段の表示から違いました。家庭用に、菓子店ではバラ売りもしていましたが、値段は1個いくらでした。1斤の値段として

も随分高いのですが、それが1個の値段だと分かるのに、ちょっと時間がかかりました。丁度「量り売り」に慣れてきた所で、月餅を「1斤ください」と言って、笑われたことがありました。自家用のものでさえ、当時は1個1元とか1.5元とかで売られていましたが、昨年辺りは、1個10元以上のものが殆どでした。

ところで、2002、3年当時、店先の赤いテーブルクロスの上に並んだ月餅は、綺麗な缶や箱に入って30元とか40元、高いものは160元もしていました。持ちきれないほどの食料品を買っても5～6円で済んでしまうような生活に慣れてしまうと、間違いではないかと思える値段でした。当時の初任給は600元もあると、「恵まれた職場」と思われていましたから。

庶民生活とかけ離れた値段の月餅はどうなるのでしょうか。企業関係者が大量に買って、これまた赤い紙の手提げ袋に入れ、営業マンが取引先に配って歩いているのをよく見かけました。自家用車の少ない時代でしたから、タクシーに乗ったり、歩いていたり、余計目に付いたのでしょう。日本のお中元とかお歳暮とかいった意味合いのものなのです。

因みに、此の月餅の包装に関しては、環境問題が取り沙汰されるようになってから、過剰包装との認識が高まり、中央政府が何回か包装を簡素化するようにとの通達を出しましたが、余り効果は無かったようです。何人かの友人の家で、「△年に〇〇から貰った月餅の箱」と言って、小物入れや室内装飾に使っているのを見ると、PR効果は抜群で、つくる側・贈る側にしたら、包装の簡素化など聞く耳を持たないのも当然と感じました。そして最近はその金額も300～400元は普通で、高いものは1000元以上のものも現れたと聞きましたが、いまや状況が変わって来ました。

今回の習近平主席の綱紀粛正はかなり徹底しているようなので、月餅の贈答にも必ず影響が現れるのではないかと考えます。果たしてどのようなことになるのか、是非見てみたいと思っています。



# 自縄自縛

私の調べた諺・慣用句 32

三澤 統

自分が言ったことや行なったことが元になって、自分自身の動きがとれなくなることを表わす「自縄自縛」という四字熟語がありますが、中国にも同様の意味を持つ“作法自毙”という四字成語があることがわかりました。今回はこの成語について調べてみることにしました。

辞書を見るとそれぞれ次のように載っています。

▲小学館 デジタル大辞典：

「自縄自縛：『自分の縄で自分を縛る意』自分の心がけ・言葉・行為のために、自由な動きがとれず苦しい立場になること」

▲小学館 中日辞典：

「作法自毙：法を制定して自分が掛かり合いになる、人を陥れるために作ったわなに自分がかかる。自縄自縛、自業自得に同じ。」

この成語の出自は〈史記・商君列伝〉の「嗟乎！为法之敝，一至此哉！」（ああ！法を為すの弊、一にここに至るか！）の部分です。

秦<sup>1)</sup>の孝公<sup>2)</sup>は秦国ができるだけ早く富める国になって欲しいと思い、商鞅<sup>3)</sup>に各制度の改革を命じました。商鞅は新法令を人民に深く納得させるには、人民の心の中に朝廷の威信を樹立することが必須であると考えました。そこで新法発布の第一日に部下に命じて城門の外空き地に10米ほどの高さの柱を立てさせ、そこに次のような告示を貼り出しました。

「この柱を一丈（約3.3m）移動した者には賞金十金を与える」

これを見て人々は初めはただ野次馬見物をしているだけで、誰一人その柱を動かそうとする者はいませんでした。なぜなら彼らは柱を移動するだけでお金をくれるなどと、そんな気の利いたことを御上がするはずが無いと思ひ、信用していなかったからです。

そこで商鞅は賞金を少しずつ上げてゆき、遂には五十金まで出すことにしました。それならとある豪気な者が柱を一丈ほど移動したところ、本当に賞金の五十金を渡されました。人々はそれを見てやっと朝廷を信用するようになりました。

しばらくの後、孝公の太子の駟（後の恵文王）が新法を犯してしまいました。そこで商鞅は太子を処罰する事を孝公に願ひ出しましたが、さすがに孝公は自分の嗣子である太子・駟を直接罰することはできないので、太子の後見役の公子虔を鼻削ぎの刑に処し、また教育係の公孫賈を額への墨刑（顔などに刺青をする刑罰）に処し、さらにも

う一人の太子侍従の祝權を死刑に処しました。このために公子虔・公孫賈の両人は無様な外見を恥じて外出しなくなり、商鞅を心の奥底から憎悪したといひます。

その後人々は皆法律を守って仕事をしたので、秦国はやがて富める国となりました。

紀元前338年、孝公が死去し、太子駟が即位し、新王（恵文王）となりました。この時かねてより商鞅に恨みを持つ新王の側近の公子虔（太子時代の後見役）、公孫賈（太子時代の教育係）らの反商鞅派は新王に讒訴し、商鞅に謀反の罪を着せ殺害しようとしていました。新王自身も太子時代に自分を罰しようとした商鞅に怨恨を持っていたので、商鞅はそのような状況では都に居られるはずもなく、急いで都から逃亡しました。途中、ある宿に宿泊を願ったのですが、彼はそのとき身分を証明するものを持っていなかったため、宿の主から、「新法によって、旅券を持たない身元不明の者を泊めるわけにゆかないのです」と宿泊を断られてしまいました。

その新法は商鞅が制定したものでしたが、まさか自分がその新法で束縛されることになろうとは思いませんでした。結局商鞅は新王の追手に捕らえられ、反商鞅派の積年の恨みもあって、両手両脚を馬に引っ張らせて身体をばらばらにするという極刑に晒されました。

## 〔注記〕

- 1) 秦（紀元前778年～紀元前206年）：中国の王朝。周代、春秋時代、戦国時代にわたって存在し、紀元前221年に中国を統一したが、紀元前206年に滅亡した。
- 2) 孝公（紀元前381年～紀元前338年）：中国戦国時代・秦の第25代公。姓は嬴、富国強兵に努めた中興の祖。
- 3) 商鞅（紀元前390年～紀元前338年）：中国戦国時代の秦国の政治家・将軍・法家・兵家。



イラスト ye Lin

★今月号のイラストについてのYeLinさんのコメントを15ページに掲載しました

## 【前号までのあらすじ】

今は昔、南宋の臨安市に劉貴という男が妻の王氏と妾の陳氏と3人で住んでいました。ある日、劉貴は妻の王氏の実家から商売用にお金15貫を借りて帰りましたが、妾の陳氏をからかって「お前を売った」と告げました。

困惑した妾の陳氏は、父母に相談しようと家を出ましたが、その夜、男が、劉貴の家に忍び込み、劉貴を殺してお金を盗みました。

妾の陳氏は、道中、若い男と道連れになり一緒に歩いているところを近所のものに捕えられました。そして、若い男の荷物に、盗まれた金額と同じ15貫のお金があったことで、動かぬ証拠とみなされて二人は死刑に処されました。

正妻の王氏は一年間の喪に服した後、父親が差し向けた老翁と実家に向かいましたが、その途中、森の奥に入り道に迷っているところを、山大王と称する強盗に襲われ、老翁は殺され、王氏はやむなく山大王夫人となりました。

さて山大王と称する強盗は王氏を自分の妻として半年も経たないうちに何度も金持ちの家に押し入っては盗みをはたらきました。そして沢山のお金を自分のものにしましたので暮らしが豊かになってきました。

最初の内、王氏は山大王を恐れて、何も言う事ができなかつたのですが、山大王が自分には常に優しく対応してくれるので、折を見ては山大王に説得するようにしました。

「この家に入って山大王様のご様子を拝見して、毎日忙しく大変苦勞していらっしゃるのだと知りました。しかし、このままでは気持ちも落ち着かないのではないかと思います。お金があるのですから、やはりまともな商売をなさった方があなた様にとっても良いと思われませんか」

山大王はこのような言葉をあまり耳に入れようとはしませんでした。王氏はいつも彼の機嫌のいい時を狙って話しますので、だんだんその通りだと思ふようになり、とうとう心を入れ替えて人としてまっとうに生きようと心を決めました。そこで店舗を借りて商売を始め、その商売も順調に進んでいきました。

悪事からすっかり足を洗った山大王は、暇があると王氏と一緒に寺へ行って念仏を唱え、それまでに犯した数々の罪悪を綺麗さっぱりと洗い流したいと願うのでした。

そのようなある日、山大王は王氏ととりとめなく世間話をしていました。

「俺はね、お前と一緒に生活するようになって、そのお陰で商売を始めたが、その商売も順調にゆくようになり生活がやっと安定した。おかげでどうか心穏やかな日々を過ごせるようになった感じがしているのだね。その上、常に念仏を唱えるようになって因果応報の意味も悟れるようになった。だから心を入れ替えようと努めているのだが、却って昔のことをよく思い出す。実はかつて殺さなくてもいい二人の人を殺したことがあり、その罪を贖うためにも、善行を積んで彼らの霊を済度してあげないと安心できない」

王氏はびっくりし

「二人を殺したとは、どういうことですか。どんな人ですか。そのような話をこれまであなたから聞いたことがありませんでしたわ」

「そうだね。一人はお前さんに会ったその日、お前さんと一緒にいたじいさんさ。お前さんも忘れられないに違いない。思い返せば、お前さんの旦那だったあのじいさんは、俺に仇したわけでもないのに、俺に殺され、その上、自分の女房までも俺の

ものにされてしまったのだからきっとあの世でどんなにか俺を憎んでいるだろうなあ」

王氏は

「それはもういいの。そんな昔の話。ところで、もう一人はどういう人だったのかしら」

「もう一人のことはね、仏様も許してくれないかもしれないと思う。その男を殺して、俺は逃げたが、無実な二人の人間が冤罪によって処刑された。そのことも合わせると三人の命が俺と関わって死んでいる」

「それはいつのことでしょうか」

「二年近く前のことさ。私は賭けで失敗して一銭もなくなってしまったのさ。そのような訳で金かねになるものを盗もうと、夜、空き家を狙って近くの村に入った。丁度、ある家の戸の錠が掛けられていなかったの、忍び込んで見ると、男がベットでぐっすり寝ていた。さらに嬉しいことに、その男の足もとに金を入れた袋があった。俺がそれを盗み取ろうというところで男が目覚め、「コラ！俺の金を盗もうとしているのか。それは義父から借り受けた商売の手元金にする金だ」と怒鳴りつけられた。そんなもんで俺とその男は金の奪い合いを始めた。男が大声で騒ぐので俺は怖くなり、たまたま足元に斧があったので急いでそれを手にして、男に向かって一振りすると、男は血を流して倒れた。俺は大急ぎで金が入った袋を背負い、逃げようとする、男が動いたのでさらに斧を振って息の根を止めた。男が俺の顔を見ているので後日禍を招くと大変だと思ったからだ。俺はそのまま逃げ出した。その後、他人ひとから聞いた話だと、死んだ男の妾ともう一人の男の若者が犯人として捕らえられ死刑にされたそうだ。悪いことをしたと胸を痛めているが、きっとその二人もあの世で俺を怨んでいるに違いないだろう」

山大王が語るのを聞いた王氏は「あっ！」と心の中で声をあげ、血が頭に上って来ました。

王氏は一生懸命気持を落ちつかせて

「そうだったのか」

と呟きながらも心では次のように思ったのです。

「なんということなのだ！この男が私の夫を殺したのか。二姐とあの若い男性に冤罪を着せてしまった。これからどうしたらいいのか。私は真実を知って黙って、この男とこれからもずっと一緒に生活していけるのか」

王氏はその日一日中いろいろ思い巡らし、気持ちを塞いで過ごしました。

翌日、王氏は山大王の隙を見て家を抜け出し、まっすぐ府庁に駆けつけました。

その頃の府庁では新しい長官が赴任してきたばかりで、業績をあげようと心を砕いていました。

長官の前で王氏はこれまでの一部始終を泣きながら話しました。王氏の陳情を丁寧に聞き終えた長官はさらにいろいろ細部に亘って調査を行い、一年前の事件が間違いなく冤罪だったことを明らかにしました。

殺人の罪で山大王は逮捕され、尋問と拷問を繰り返した結果、隠しおおせないと悟った山大王は終に白状しました。

山大王に死罪の判決が下され、書類が朝廷に送られました。半月ほど経つと、朝廷の聖旨が下りました。

「強盗・山大王は人命を奪い、金品を奪い、無実の者にも累をおよぼした。律に拠って直ちに斬罪を行う。王氏は悪人に脅迫され、結婚したが、よく夫の仇を報じ、本当の罪人を告発した。犯人の財産は、半分官庁に没収し、半分は王氏のものとする」という内容でした。

刑を実行する当日、王氏は処刑場に行って、大王の首を貰って、亡き夫のお墓、二姐、及び若い男性のお墓に供え、大泣きしながら報告しました。

その後、王氏は尼になることを決意して、自分の財産を尼寺に寄進して、自分も尼寺の人となって毎日朝夕今は亡き人々を供養し、お経を仏に捧げる日々を送りました。そしてそのまま尼寺で行を積み百歳の長寿で生涯を閉じたということです。

(終わり)



今回は、揚州市の文化や芸術について紹介するが、その前に先日ある友人と食事した時、彼が5月に唐招提寺に行ってきたと言うので、ちょうど鑑真について書いた後でもあり話が弾んだが、その会話の中で出た「瓊花(チョンホア)」と言う花を紹介したい。

彼の話によると境内には黄白色の花をつけた瓊花が、あたかも打ち上げ花火が夜空に咲いたように満開であったと言う。この花はなんと揚州市が原産地である。ネットには、

「隋から唐の時代、その芳香ある黄白色の花が愛でられたという。ただこの花は聚八仙という台木に接ぎ木して増やしていたが、やがて元軍の侵入と共に絶えてしまった。日本では鑑真和上の縁でゆかりの寺・大明寺から贈られたものが、奈良の唐招提寺や飛鳥寺などに植栽された。高さは4メートルほどになり、黄白色の両性花と周囲に8個の真っ白な装飾花を咲かせる。別名で八仙花とも呼ばれる」

とある。この内容が正しければ、すでに揚州市で見られなくなった花が日本のいくつかの寺の境内で参観者の目を楽しませてくれているということだ。隋の煬帝はこの花を愛したと言うが、鑑真和上もきっとこの花が好きであったであろう。いつの日かパンダではないが日中友好の証としてこの瓊花が里帰りすればいいと思った。ちなみに「八仙花」は通常アジサイのことであるが、そう言われればガクアジサイによく似ている。

ここで揚州市の文化・芸術に移ろう。揚州市は、'揚州・その1' で書いたように少なくとも7～8世紀ころは長安、洛陽に次ぐ大都会であった。これは全長2500kmの京杭大運河の完成(610年)により交通の要衝となったことから、人と物が集まる街に



咲き乱れる瓊花(けいか)、唐招提寺境内にて

変貌したからである。経済が発展すればその地に大富豪が生まれるのは世の常である。

揚州は「塩商人」と呼ばれる塩の利権を得た大富豪が多数生まれた。塩は日本でも以前は専売商品であったが、中国も歴代王朝は塩の専売制を踏襲したのだ。専売には利権がつきものであることは昔も今も変わらない。揚州は海に面しているわけではないので製塩で巨万の富を築いたわけではない。もっとも長江が運んだ土砂により海岸線が東に移動したようであるから当時の揚州はもっと海に近かったかもしれない。いずれにしても物の本には揚州の塩業は漢代(BC206年～AD220年)から次第に発達していったとある。

中国は、歴代王朝が北方からの異民族の流入を防ぐため、万里の長城を逐次構築し辺境には多数の軍隊を常駐させた。その軍隊へは貴重な塩と食糧を供給する役目を揚州商人が担ったのだ。

どこの商人でもよさそうなものであるがなぜ揚州なのであろうか。京杭大運河は紀元前486年から呉王夫差が掘削を始めたことと既述したが、私は次第に長安や洛陽に向かって運河が伸びるにつれて歴代王朝は揚州商人を活用し江南の豊かな物資を運

河を利用して、万里の長城付近の軍隊の駐屯地に運び入れたのではないかと思うが如何であろう。

この揚州の塩商人や織物商人は巨万の富で文化・芸術を支えたのである。とくに明、清時代には中国最大の塩流通の根拠地として繁栄した。後述する「揚州八怪」と言われた文人画家群の活躍は清代であり、蘇州の庭園のような庭園もこの時代に造られているものが多い。時代は遡って、揚州との関わりが深くこの地で没した暴君で名高い煬帝は実は隋代を代表する文人であり詩人であった。煬帝の作品は中国文学史において高い評価を得ているという。彼の、静寂に覆われた長江の夕暮れを描写した作品をここに紹介しておこう。

### 春江花月夜

暮江平不動（暮江平にして動かず）

春花満正開（春花満ちて正に開く）

流波将月去（流波月を将いて去り）

潮水帯星来（潮水星を帯びて来る）

彼のイメージと異なる穏やかな美しい詩である。次の唐代（618年～907年）はご承知のようにキラ星のごとく大詩人を輩出した時代であるがその中で李白、白居易、杜牧など多くの詩人がこの地を訪れている。また宋代では王安石、欧陽脩、蘇東坡など（この3名は散文における唐代、宋代の最も優れた作家と言われる「唐宋八大家」に含まれている）がこの地で役人を勤めたり旅行したりして、揚州を描いた文学作品をあまた残しているようだ。隋・唐の時代から明・清にかけて揚州は文化の大きな発信地であったと言っても過言ではない。

さて「揚州八怪」である。これは清朝の乾隆帝の時代に現れた揚州を代表する一群の文人画家を言う。八怪というからには八大画家と思われるが、いろいろな説があり必ずしも八人という訳ではなさそうだ。文人画家とは、中国においては職業画家の画に対し、文人が余技として描いた絵画をいう。

当時、職業画家は技巧にばかり拘泥する、と批判する動きが顕著になり、画家の内面性、精神性を表現する絵画が評価されるようになっていった。そう

した流れの中で「揚州八怪」の一派は、画風は自由奔放であり、個性的で揚州画壇に新風を巻き起こした。彼らは花鳥画に優れ、四君子と言われる、梅、蘭、竹、菊を好んで描いた。「怪」という漢字をなぜ使ったかであるが、「当時の伝統的画法に比べ、奇異であるとともに優れている」とのニュアンスのようだ。当時の革新的な流れをよく表しているのかもしれない。ちなみに文人画は日本には室町時代に伝えられ、江戸時代中期以降に盛んになったという。池大雅、与謝蕪村、谷文晁、渡辺華山らは江戸時代の文人画の代表格とされる。

ここで「四君子」の説明に移ろう。先に挙げた四つの草木が君子のあるべき姿をよく表しているというのである。それぞれの草木を一語で表す言葉と解説をまとめると次の通りである。

**梅**：高潔 冬の寒さに負けず、風雪の中でも凛々しく開花する。孤高で人に迎合しない品格を持つ花。季節は冬を表す。

**蘭**：清逸 優雅な姿態と高貴な香りを持ち、清らかなイメージの花。季節は春を表す。

**竹**：節操 真っ直ぐ伸びる姿は「純粹で正直な品格」、強い節は「屈しない節操」、空洞は「謙虚な精神」に例えられる。季節は夏を表す。

**菊**：淡泊 草木が枯れ始めた晩秋に咲き始める。寒い西風をものともせず瑞々しい香りを放ち、静かに且つ美しく咲き誇る花。季節は秋を表す。

それぞれが君子のような品格を持っていることから、当時から中国人は「四君子」と呼んだのであろう。そして八怪がこの四君子をよく描いたわけは、基本的な筆遣いを全て学べるからだそうだ。

四君子はまた、四つの草木を全て使った図柄をも示すとある。その図柄を「四君子紋」とか「四君子文様」といって四季を通じて縁起の良い図柄として着物や帯に使われてきたようだ。中国では縁起の良い「吉祥文様」として人気の図柄のようだ。四君子紋が入った着物や帯を私は見たことがないので何人かの方に尋ねたが、見たことのある方は残念ながら



なかった。四君子は麻雀の花牌として4枚一組で中国では使われているらしいが、日本の麻雀には使われない。以前、私は花牌の入った麻雀牌を見たことがあるがとても綺麗であった。

四君子に対する中国人の考え方と書いたが、いつの時代からいつまでの時代の中国人の考え方は知らない。これと違った感覚の人がいる。それは儒学者であり哲学者の周敦頤(1017年～1073年)という人だ。彼の書いた「愛蓮説」は、蓮の高潔さを称えながら華美なものばかり賛美する少なくとも北宋(960年～1126年)時代の世相を風刺した有名な文章であるが、それによると、「菊」は、世間の煩わしさから逃れる「隠逸の花」と書いてある。どうみても君子のイメージではない。

一方「蓮」は君子の花であり、「牡丹」は富貴の花であるという。同じ「高潔」と言っても、方や梅であり、方や蓮であるという。時代によるのか、人によるのかは分からない。分からないついでに言えば、中国の国花は牡丹であるが、牡丹が四君子に入れてもらえないのは、君子のイメージではなく貴族あるいは資本家のイメージなのか。

私は中国国内をあちこち旅したが、牡丹は洛陽には一度も行ってないせいかお目にかかったことがない。よく見る花は断然蓮の花が多い。牡丹は別名を「富貴花」とか「百花王」とも言うそうで、いかにも中国人が好みそうな花ではある。なお中華民国は中国全土を支配していたころの1929年に国花は梅と定めている。やはり中華民国と中華人民共和国とは国の姿や考え方が異なっていることが多い。

次に観光地をいくつか紹介しよう。私は揚州には行ったことがないのでガイドブック等からの受け売りである。一つは「个園」である。清代に造られ、竹と山石で有名だそう。最初にこの庭園を本で見たと、き、「个」という字は一個の個の簡体字とばかり思っていたが、実は竹を意味していてこの字の形が竹の葉に似ていることからここに使われたという。

私の辞書で「个」を引いたが、竹を意味するとは出ていなかった。典型的な江南様式の庭園とあった。もともとは清代の画家の石涛が所有する邸宅の庭

だったという。彼は塩商人ではないが、塩商人は巨万の富により競ってこのような庭園や楼閣を造り、書画を求めたのである。

もうひとつ有名な観光地は、「瘦西湖公園」である。この公園の名は細い西湖という意味だ。杭州の西湖に似ているが形が細いのでこの名がついた。国家5A級の観光地である。園内には有名な建物がいくつもあるそうだが、ここでは北京の北海公園の白塔にそっくりの白塔についての言い伝えを紹介しよう。

「乾隆帝が揚州行幸の折、「ここには北京のような白塔があるか」と尋ねた。役人は出まかせに『あります』と答えたが、なんと乾隆帝は翌日それを見に行くことになってしまった。

皇帝を欺けば大変なことになるので役人たちは夜を徹して塩袋を積ませ塔を造らせた。幸いなことに翌日は霧がたちこめ、乾隆帝はぼんやりとかすむ白塔を見てたいそう喜んだという。役人たちは次の行幸でまた見たいと言われたら大変とばかり、そこに本物の白塔を建てたという」

乾隆皇帝は中国全土をくまなく巡幸され、各地に足跡を残された皇帝としても有名であるが、このような言い伝えは各地にたくさん残っているであろう。言い伝えと言えは揚州市内に三つの井戸がある。「宋井」、「八卦井」、「玉井」であり、それぞれに物語があるのであるが、紙面の関係で割愛したい。いつの日か揚州に行ったときはわりい紙上に物語を紹介する時があるかもしれない。

最後に食文化についてすこし書き加えたい。揚州料理はあっさりした味付けで美味であるそう。今の上海料理の原点は揚州にあるとのこと。その昔チャーハンと言えは中国ではご飯と卵を炒めたシンプルな料理であったが、揚州で様々な具材を混ぜた「五目チャーハン」を作り出したという。揚州は刃物の名産地であるがこれが料理に大いに貢献したのではないか。「揚州商人」という中華料理店が町田にもあるが、いつかその店で「五目チャーハン」を食べてみようと思っている。

(終わり)



# 詩人尹世霖の童詩の世界⑤

自然 I 金子總子

## 海 鷗

hǎi ōu zhuī zhe làng tóu  
海鷗追着浪頭，

nà me yǒng gǎn      nà me zì yóu  
那麼勇敢， 那麼自由；

yī huì r fēi shàng lán tiān  
一会儿飛上藍天，

yī huì r xià hǎi fú yóu  
一会儿下海浮游。

hǎi ōu zhuī zhe háng chuán  
海鷗追着航船，

méi yǒu jù pà      méi yǒu yōu chóu  
沒有懼怕， 沒有忧愁；

tā shì háng chuán de lǚ bàn  
它是航船的旅伴，

tā shì hǎi yuán de péng you  
它是海員的朋友。



## かもめ

かもめが 波がしらを追いかける

勇敢に そして自由に

青空を飛んだり

海に飛び込み 浮かんだり

かもめは いく船を追いかける

恐れず そして憂えず

それは航海の道連れで

船乗りの友達だ

## hǎi biān hái zǐ ài dà hǎi 海邊孩子愛大海

hǎi biān hái zǐ ài dà hǎi  
海邊孩子愛大海，

tiān tiān tóu jìn dà hǎi huái  
天天投進大海懷。

làng tóu làng gǔ lái yòu qù  
浪頭浪谷來又去，

hǎi dǐ mō chū páng xiè lái  
海底摸出螃蟹來。

zhǎng dà zhēng fú shuǐ jīng gōng  
長大征服水晶宮，

jiù zài wǒ men zhè yī dài  
就在我們這一代。

## 海邊の子どもは海が好き

海邊の子どもは海が好き

毎日海に飛び込み 遊んでる

でっかい波が打ち寄せても

波間にもぐって 蟹をとる

大きくなったら 征服するぞ 竜宮城を

それでこそ ぼくらの世代なのだ



## 正倉院展、唐代を想う

陽光新聞社・顧問  
塩澤宏宣

今年も正倉院展が開催されます。66回を数えます。奈良国立博物館で10月24日～11月12日まで。今年は、樹下に天平美人を描いた「鳥毛立女屏風」や西アジアからシルクロードを經由して運ばれたと思われる「白瑠璃瓶」など59点が展示されます。

「鳥毛立女屏風」は日本で制作されたものですが、唐の最新ファッションや風俗が描かれています。日本で描かれたそうですが、最新ファッションなどを誰がどうやって伝えたのでしょうか。推理も楽しめます。古代の日中交流に強い関心を持っていた

私は、現役時代に数回、正倉院展だけを見るために奈良へ行った記憶があります。

正倉院御物といえばやはり遣唐使。はるか昔に文化を求めて荒海を渡った遣唐使のロマンが、私の留学志向のエネルギーとなりました。向かった先はアメリカでしたが、それはともかく、大好きな唐への思いを述べてみたいと思います。最近、「つんどく」のなかから「大唐帝国(宮崎市定著)」を読み返してみましたが、唐の実態は日本で思い描かれている唐とはまったく異なる姿が浮かび上がってきます。

618年に李淵(高祖)が隋を滅ぼして成立し、907年に朱全忠に滅ぼされるまでの289年間の唐の歴史は、国の内部においては内紛が続く汚辱に満ちていましたが、外に向かつては国威を発揚していました。現代中国同様「内面・外面」の違いに仰天します。ほんの断片ですが驚きの部分を述べてみたいと思います。

### “華麗な”唐王朝の内面は？

歴史上「唯一の女帝」則天武后。2代皇帝太宗の後宮に武氏という美女がおり、太宗の死後、尼に

なっていたのを3代皇帝の高宗が見初めて後宮に迎え、つぎに正皇后の王氏を廃して皇后にしてしまいました。

高宗は生まれつき、賢くなく、病身で頭痛もち。政務の決済などは、しだいに武后が行うようになり、代理であった武后はやがて権力の虜になってしまいました。それからは権力維持のために手当たりしだいの殺戮が始まります。前皇后の王氏はもとより、高祖、高宗の一族は皆殺し。そればかりでなく自身の子にも迫害を加えました。実子の李弘や李賢も薬殺。高宗が死んで天子についた中宗(李哲)を3か月でクビ。次にはやはり武后の子・李旦を立て、睿宗としました。

その頃は仏教が広まっていた時代。僧の法明なるものがゴマをすり、「武后は、救世主弥勒仏の生まれ変わりだから、天下の主となるべし」と説きました。そこですぐさま睿宗を廃して自ら皇帝になってしまいました。690年のことです。

武后が皇帝になるにあたって行われた大量の殺害は、唐の王室外戚が数百人、大臣数百家に及んだそうです。従来より、新王朝ができるとき、前王朝に貢献した一族や功臣は邪魔者扱いして排除するのが通例ですが、武后の処置は無謀といわねばなりません。しかしこの大量殺戮が、後に政界を肅清したという評価になります。武后は81歳で死にますが、在位は15年に及びました。さすがの豪傑武后もよる年波には勝てず、宰相の意見に従って遠方に流しおいた中宗を呼び寄せ後継者に指名しましたが、中宗は妻の韋皇后に毒殺されます。

韋皇后の一族が勢力を伸ばすことを危惧した睿宗の子である李隆基が立ちあがり韋一族を殺戮しました。その後睿宗が復位し、李隆基は皇太子となり、712年玄宗皇帝が誕生します。

玄宗は在位45年に及びますが、そのうちの最初の30年間はまさに平穩の時代。天下泰平で実績を記すことがほとんどありません。その理由は則天武后によって肅清された大方の旧勢力の残党がほとんど残っていなかったせいです。唐の王室はまったく新しく生まれ変わったのです。



## 唐王朝の対外事情

まず、日本との関係に触れてみます。玄宗皇帝の時代に、遣唐使は3回派遣されています。

第9回(僧玄昉、阿部仲麻呂、吉備真備など)・第10回・第12回(鑑真来日)(11回は停止)です。玄宗は、特に高僧の鑑真和上の渡航には大反対で、妨害したとも言われています。阿部仲麻呂は科挙に合格。唐の高官として仕え、玄宗には特別評価されて唐に永住しました。

一方、地続きの大陸では、モハメッドが7世紀にイスラム(サラセン帝国)を立ち上げ、その勢力を東西に伸ばし始め、ペルシャの貴族や富豪はシルク・ロードを伝って中国まで逃げ延び、唐の領土を安住の地と定めました。彼らは中国人に同化して商業資本家として活躍しました。

唐の経済面では、かつて西アジアから学んだ陶器は「唐三彩」を生み出すなど、西との交易に影響を与えました。文化面では李白や杜甫、白楽天が活躍します。宗教では玄奘三蔵がインド・西域で仏教を学び帰国します。

政治・経済・文化で安定した玄宗の時代も晩年は、いささか情けない15年でした。在位が長くマンネリ化し、蓄積が豊富になると、人間はいつしか遊惰安逸に流れます。隋の煬帝そこのけの奢侈を好む凡庸君主に成り下がってしまいました。玄宗は自分の息子の嫁を取り上げて後宮に入れてしまいます。それがかの楊貴妃です。

楊貴妃は絶世の美人といわれていますが、さらに大変官能的でした。玄宗は楊貴妃を伴ってしばしば温泉に行ったそうです。白楽天は詩に歌っています。「温泉水滑洗凝脂=温泉の水滑らかにして玉肌を洗う」と詠じました。この時代の詩人は、西欧の宮廷画家(お抱え絵師)のようだと宮崎氏は指摘しています。未曾有の経済力を誇る唐にはシルク・ロードを通じて東西文化交流の最盛期を築いていました。

## 斜陽化する唐王朝

やがて玄宗の唐は崩壊の道をたどり始めます。まず周辺諸国が活発になります。北の外モンゴルではウイグルが突厥を併合。西のチベットでは吐

藩が強盛となり、南の雲南では南詔が独立して大国になってきました。唐は包囲されてしまったのです。

西アジアではサラセンのウマイヤ王朝を倒して、アッパース王朝が興り新疆省内の唐の属国に侵攻してきました。751年、唐は7万5千の大軍を送りましたが惨敗。ほとんどの兵が捕虜になりました。中国の製紙技術が西アジアに伝わりましたが、この戦いで捕虜になった兵が技術を教えたそうです。

その4年後に有名な「安祿山の乱」が起きます。反乱軍の将兵はチベットや西方イラン系、北方遊牧民出身の異国人が多く、中国人に対しては情け容赦ありません。中原一帯は荒れ狂い、修羅場となりました。

攻撃目標は大都市でしたから、洛陽はたちまち陥落。賊軍が長安に向かうと玄宗は周章狼狽して、蜀を目指して都落ちします。この時、楊貴妃は殺されてしまいます。やがて玄宗は甘粛省の節度使(地方軍の司令官)の郭子儀によって上皇に棚上げされ、皇太子を即位させて肅宗が誕生します。

郭子儀は契丹人やウイグル人の援軍を得て安祿山の軍を破りました。763年のことです。安祿山の乱のような大乱を経ると、たいていの王朝は滅亡に向かうのですが、唐王朝はその後150年も生き延びます。

その理由は国家としての形態を変質させたからです。武力国家から財政国家への変身です。何にも勝るのは経済力、武力が必要なら「金で買え」です。金さえあれば何でもできるという現代に通じる発想が生まれました。以上は唐の歴史のほんの一端ですが、いずれ本欄で続きを書きたいと思います。

多くの中国人が正倉院展を見れば、失われた過去の中国の歴史に驚嘆し、それらを今日まで保存してきた日本人に感謝すると信じています。



## 2014 四川省&青海省 高原花の旅 (7月12日～21日)

四姑娘山自然保護区管理局特別顧問の大川さんにご案内いただき、恒例のチベット高原花の旅は、「未訪の地を訪ねたい」という関根の要望で青海省のアムネマチン山(6,282m)の山麓まで車を走らせ花を楽しんだ。



xī mén cuò  
希門措\*

(注: 措はチベット語で湖、中国語では同じ音の漢字をあてた)



gān bǎo zàng zhài  
甘堡藏寨

(文とスケッチ: 関根茂子)

### 新しい出会いを求めて、四川省・青海省の花の旅 写真と文: 河本義宣

私にとって、大川さんガイドの花の旅は今回で3回目である。訪問地の青海省は初めてである。これまでの四姑娘山や丹巴とは花も景色も違うのではと、期待に胸を膨らませ成都空港に降り立った。大川さん、通訳の李さんとは2年ぶりの再会である。

市内に向かう車窓から見る景色は空に向かっていく(高層住宅の林立)。のっけから景色が違っているのである。中国の発展が急テンポで進んでいることを実感した。今回の旅は日本から、関根さん以下7名、大川さん、運転手2名総勢10名の旅である。



成都市街

#### ❖ 風景・地形編

旅3日目(7月14)から青海省入りした。訪れた地域の主たる住民はチベット族で、チベット仏教圏(多くがニンマ派)に当たり、チベット寺院やチベット仏教特有のタルチョ(青=空・白=風・赤=火・緑=水・黄=地を表す5色の四角い旗)やルンタ(風馬旗とも言い、風の馬が描かれ、仏法が風に乗って広がる祈祷旗で、同様5色の長い旗)が随所に見られた。

15日～18日の4日間はほとんど標高4,000m以上のところで過ごした。山容はなだらかで、一見200m～300m山が連なっており、その多くがヤクの放牧地である。その中で、観光地「年保玉則」の風景と雪を戴いたアムネマチン山(6,282m)は別格であった。

#### ❖ 花編

最大の収穫は「白いケシ」に出会えたことである。青・黄・赤もあって、4色揃い踏みであった。色の濃い八重咲の青いケシにも出会えた。ケシを見つけるコツも覚えた。4,000mを超えたあたりから山側の斜面を観察していると、突然目に入ってくる。白いケシも仲間の一人がそうして、車窓から見つけたものである。

他では、今回特に多かったのがシオガマギクの仲間(赤・黄・白・ピンクで同じ色でも微妙に違う)で、10種前後、しそ科、きんぽうげ科トリカブトの仲間、ごまのはぐさ科イヌノフグリの仲間や、私には同定出来ない沢山の花を撮ることが出来ました。特に印象に残ったのは背丈20cm前後の黄色いキンロバイ(ばら科)が随所で群生していたことである。

#### ❖ 宿・食事編

今回の旅の特色の1つが、宿は事前予約なく、現地に着いてから探すというものであった。その都度、大川さんの手を煩わせ、ご尽力いただいたことに、この場を借りてお礼申し上げる。全部の宿、菜館(食事処)に表示があった訳ではないが、日本でいうところの保健所の規則が掲示してあり、等級(A級、B級、C級)の表示がされていた。

私たちが泊まり、食事した所は、A、Bはなく全てCだったが、同じCでも「いろいろあり」だった。今回の食事で1番は何と言っても、「杭州小籠包」の看板を出している菜館であった。肉、ジャガイモ、キャベツ(?)をつつみこんだ包子がとても美味しく、都合3度の朝



食を摂り、二日に亘り昼食弁当用に別途注文した。もう1つは、宿併設のレストランで出た煮込んだ肉(?)の一皿で、今までの少し硬めの肉(ヤクや豚)に比べて何と柔らかく美味なることか。何の肉かと店員に問えば、「なす」との返事。一同、驚きの声と同時にこの肉料理(!?)を一気に胃の腑に収めた。



ゴマノハグサ科-シオガマギク



ゴマノハグサ科-シオガマギク



ゴマノハグサ科-イヌノフグリの仲間



アムネマチン山 (6282 m)



ヤクの放牧



年保玉則の風景



青いケシ



白いケシ  
(青いケシのアルビノ種)

★紙面の関係で掲載できない写真とスケッチを 'わんりい' HP フォトギャラリーに掲載しました。是非ご訪問をお待ちしています。

今まで3回にわたりいかに効率良く英会話を学ぶか説明しましたが、最後にまとめとしてポイントを再度列挙します。

### 1. 文法・発音のミスを恐れず、恥ずかしがらない。

単語を並べる気持ちで臨む。仮に自分よりはるかに上手い人(海外に10年以上駐在経験など)がいても、無視して自分のペースで堂々と話すこと。日本人でこれができる人は大変すくないのですが、外人は半分以上できますよ。

面白いエピソードを紹介します。筆者が以前あるパーティで日本語が完璧に近い米国人数人と話してました。皆奥さんが日本人とか滞在経験20年ぐらいのひとばかりです。その時最近日本に赴任してきた米国人が加わりました。もちろん日本語は半年ぐらいで、おはよう、ありがとう程度のカタコトです。

驚いたことにその人の性格もあるのですが、我々の会話に堂々と日本語で参加してきました。そして何を言っているのか皆キョトンとしても堂々と単語を並べたり、英語で補足したりしてしゃべり続けました。これがまさに私が理想とする会話習得方法です。勿論日本人ならここまでやると嫌われますが、少しでもそうやればかなり向上することは間違いありません。

**2. 基本的な構文の文章(第二回に説明)を何度も口に出して、完全に覚える。**それを使った独り言を言う習慣をつける(一日10分で充分)。

とにかく読むのではなくて実際口に出して練習すると覚えやすい。

### 3. 英会話の本の活用法を知ろう!

いろんな種類がありますが、A4サイズ1~2枚で何か物語とかエピソードがあればいい。英会話の教則本でバイブル的存在のアメリカ口語教本(研究社)入門と初級で充分です。

- (1) まずその物語のストーリーを日本語で数回読んで内容を完璧に頭に叩き込む。(大体簡単な内容だからこれは誰にでもすぐできます)
- (2) 次にその英文をざっと聞いてみる。勿論分からない単語もあるでしょうが、それは飛ばして何度も

繰り返す。日本語で物語のストーリーが完全に頭に入っているの、ついていくのはそんなに難しくありません。最低50回できれば100回以上やってみる。

- (3) 最後にわからない単語をチェックして何も見ずに英語だけを聞く。間違いなく何を言っているかは英語できちんとわかるようになります。できれば数カ月これを繰り返せばいい。

### 【結論】

1. 知っている単語と基本表現で大きな声でゆっくりしゃべること。
2. 仮に通じなくても相手が反応してくれます。
3. 観光での日常会話を誤解しても、何の問題があるでしょうか?

### 【ビジネス英語】

最後にビジネスマンもこの記事を読んでおられると思うので、ビジネス英語について一言。筆者は仕事柄ずーとこの分野にかかわってきましたので、今も地方都市のジェット口などで貿易英語や、ビジネス英語の講師をしております。

1. 一番大切なのは英語ではなく、日本語できちんと内容を理解してビジネスができる能力を養うこと。輸出入ならどういう戦略で、どの地域をどう攻めるか? これがないとTOEICで900点を取ってもだめです。当たり前話ではありません。
2. 但し最低限の英語は会話と同様必要で、特に単語数は多ければ多いほど有利です。発音はジャパニーズ英語で充分だし、それこそ文法などほとんど関係ありません。但し契約書となるとこれはキチンと正確に理解しないと問題になります。(契約書も最初は簡単な覚書から初めて段々と慣れてくればできます)。
3. 貿易実務は沢山本がでてますが、簡単なもの一冊を買い後はOJTで慣れていけばいい。大学の先生のような理論とか分析は実務では不要です。

### 【多言語の習得】

筆者は興味本位で多くの言葉に関心があり、日常会話程度なら5か国語しゃべります。



英語、仏語、インドネシア語、中国語、スペイン語ですが、全て独学です。但し駐在経験のあるインドネシアは5年間その環境にいましたが、必死にやる必要もないので、日常会話程度ですが、今でも内緒の話は友人や女房とやれて便利です(笑)。

習得方法は英語と同じで、ミスを恐れず堂々と相手に切りこんでいくやり方です。'わんりい'の読者の中には中国語でかなりのレベルにおられる人もいますが、私見はヒアリングの能力をつけないとなかなか上達しにくい。特に日本人は漢字がわかるので、大したことは

ないと思う人がいますが、発音や四声がきちんとできないとだめだと思います。この点は中国語の講師をされている方に聞いてみてください。

長々と四回にわたって私の意見を述べました。異論反論お持ちのかたもおられるかもしれませんが、私のやり方を一度トライしてみてください。何か参考になると思います。又、もし疑問点などあれば、今後'わんりい'の会合などでお声をかけて頂ければ、実践してわかりやすくご説明いたします。

(終わり)

## 中国の笑い話 18 (「365夜笑話」より)

### 第45話：消しゴム

先生「世の中で、鉛筆で書き表せないものは何だと思うかね」

学生「消しゴムです」

先生「どうしてだね？」

学生「鉛筆で書いた字は、消しゴムに当たるとすっかり消えてしまいます。どうやったら書き表せるんですか？」

### 第46話：眼鏡

子供「おじいちゃん、おじいちゃんはどうして眼鏡をかけているの？」

祖父「目がよく見えなくなったからだよ」

子供「じゃあ、目の悪い人は、皆、眼鏡をかければ良いのにね」

### 第47話：良くない眼鏡

一人の小学生が眼鏡屋に眼鏡を買いに来て、あれこれ試しているがどれも気に入らない。

店員「どれも駄目なの？ どんなのがいいの？」

小学生「僕の先生は眼鏡をかけていて、本がよく読めるんだ。此処にある眼鏡をかけて本を読んでみるけれど、どの眼鏡をかけても読めない字が沢山あるんだよ」  
(有為楠 訳)

### 【今月号のイラストについて】

この物語は、小さい頃から維新改革を讃える事例として、聞かされました。でも一番心に残ったのは、主人公が受ける刑罰のことでした。あんまりにも残酷に思われて払拭できない強い印象となっていて、いつまでも幼い私の心に残っていました。

今回のイラストで、剣は「権力と法」を象徴し、火は刑罰の意味で表現しました。手の中の火は、人を裁くことを意味し、イラスト周辺の飾りの火は主人公自身が受ける刑罰を表しています。その火の中に棘状のものや流れる血のようなものを描きました。 イエリン



'わんりい'は、毎年4月から新年度になります。ご継続と新年度の会費の納入をよろしくお願ひします。また、新入会を歓迎します。

年会費：1500円 入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 'わんりい'

'わんりい'の名は、'万里'の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。入会されると

①年10回おたよりをお送りします。

②'わんりい'の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100(事務局)

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい'わんりい'をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

## バルト3国を旅して

為我井輝忠

あまり知られていないバルト3国を紹介したい。「バルト3国」とはエストニア、ラトヴィア、そしてリトアニアを合わせた、バルト海に面し、かつてソ連の支配を受けていた国々のことである。

この夏これらのバルト3国を初めて訪ねて、各地を歩いてみた。実は、この3国について深い知識があった訳ではない。しかも、今回はイギリスを訪ねることがメインであったので、その帰路に少し訪ねてみたいといった程度であった。しかし、いざ訪れてみると、各国とも小国ながら独自の文化や歴史を有し、それらを知ることによって逆に少しずつ一層興味深い旅行となっていた。

7月1日、イギリスからコペンハーゲン経由でエストニアの首都タリンに向かった。中世の面影を残す港町であるが、教会を始めとして、旧市街地、市庁舎、博物館等見るべきものがたくさんある。特筆すべきこととして、ここでは5年に1度の「歌の祭典」という大きなフェスティバルがあり、図らずも参加することが出来たことである。

この祭典はソ連の支配を受けていた時代も行われ

ていて、独立への機運を促したエストニア民族の誇りを表すもので、1万人を超す参加者と歌を聴く10万人以上もの人々が共に歌い上げる素晴らしい祭典であった。

この国では、タリン以外にナルヴァ、タルトゥ、ハーブサル、パルヌを訪ねた。国内旅行は列車があまり発達しておらず、専らバスでの移動になったが、特に、興味を覚えたのはナルヴァで、ロシアと接する国境の町である。真近にロシアを見ることが出来た。川を隔てて数百メートル先にはロシアの大地が広がり、歩いて行くことが出来そうなほどの近さであった。

ラトヴィアでは首都リガを中心に、バウスカ、リエパーヤ、ダウガピルスを回ったが、この国で一番興味を覚えたことは第二次世界大戦前後のユダヤ人の存在であった。

この国にはかなりのユダヤ人が住んでいたが、ドイツ軍の侵攻で彼らは強制収容所へ連れて行かれ、その多くは殺害された。

彼らが住んでいたゲッソーやユダヤ教のシナゴグ、学校等は破壊されて今ではほとんど残っていないが、実態を知りたいと思い、「ユダヤ人街Walking Tour」というものがあったので参加してみた(しかし、参加者は私一人だったが)。

かつて第二世界大戦前この国には何十万というユダヤ人が住んでいた。しかし、ドイツ軍の進出で彼ら



タリンで開かれた「歌の祭典」(7/3～7/6)の最終日



「歌の祭典」に参列した大統領夫妻とご子息





リガで見かけた民族音楽グループの女性たち



リガにあるユダヤ人虐殺記念碑

は収容所へ連れて行かれ、その多くは殺害された。彼らが住んでいたゲットーやシナゴーク等を訪ね、さらに新たに造られたユダヤ人記念館や宗教施設など各地で見ることが出来た。

最後に訪れたリトアニアでも、首都ヴィリニウスと旧首都であったカウナスにおいてユダヤ人関係の施設と事跡を見て回ったが、この国で特筆すべきことは、「日本のシンドラ」と言われる杉原千畝の存在である。

彼は第二次世界大戦の初期に当時リトアニアの首都が置かれていたカウナスの日本領事館で領事代理をしていたが、1940年7月大勢のユダヤ人が日本通過のヴィザを求めて領事館にやって来た。彼はどうしたらよいか苦しみ、日本政府に判断を仰いだ。政府の意向は「ヴィザを発行するな」であった。

杉原はその意向に背いて、人道的な立場から2000ものヴィザを発行し、6000人以上のユダヤ人の命を救ったと言われる。ユダヤ人たちはシベリ

ヤ大陸を經由して日本に到着し、そこからアメリカへ向かって、安住の地を得ることが出来た。

その記念館を訪ねることが出来た。かつてここで多くのユダヤ人を助けた勇気ある日本人を偲び、感無量の思いに浸った。彼のことはこれまで様々な書籍を通して理解していたが、さらに興味が増したことは言うまでもない。リトアニアでは誰もが彼のことを知っていて、あちこちに彼の記念碑があった。私たちはこのような日本人がいたことをもっと知るべきだと思う。

こうして私の1か月に及んだバルト3国の旅行も終え、7月31日帰国した。バルト3国はあまり日本との関わりはそれほど強くないが、小さな国々ながら独自の歴史と文化を持ち、興味溢れる国々であった。私はまたいつか訪れてみたい。

為我井さんによる「バルト3国を旅して」のお話の会を開催します。詳細は24ページをご覧ください。



杉原千畝(1900～1986)



カウナスにある杉原記念館

## 象の孤児院

赤岡健一郎 (日本スリランカ武道協会  
日本スリランカ文化交流協会)

コロンボからキャンディに向かって国道1号線を車で走ると、キャンディの手前30kmほどの処にチャーガッラという町があります。この町の郊外の、ピンナワラというところに象の孤児院 (Elephant's Orphanage) があります。この町の郊外、ピンナワラに「象の孤児院 (Elephant's Orphanage)」があります。2013年3月号の「路上であった動物達」で少しだけ触れましたが、今回はこの孤児院を紹介します。

最初にスリランカにおける象と人との関係を説明しましょう。20～30年前までは、象使いに飼われて林業や農業の現場で働かされている象が多くいましたが、現在では象使いに飼われている象の数はかなり減っています。僕がスリランカに住んで居たのはほぼ20年前になります。

この頃には、コロンボの町中を象が歩いている姿を見かける事は有りませんでした。ちょっと郊外に出れば鼻を使って器用に丸太等を運んでいる象をよく見かけました。それも、道路の端を歩くのではなく、象使いに連れられて道路の真ん中をゆっくりゆっくりと歩いていた。もっとも、道路の端を歩いたら、うっかりすれば人を踏みつけてしまうからかもしれません。まるで象にはゆっくり歩く特権があるかのように、後ろにどんなに渋滞ができてもお構いなしにです。また、それが許されるような雰囲気はスリランカの人の間にはありませんでした。

特定の場所で働いている象もいたし、町の便利屋さんの様に何か力仕事があると、象使いに助っ人を頼んで家や現場に来てもらっていました。郊外にできれば象をよく見かけたと書きましたが、昔に比べれば見かける機会は減っていたようで、象が歩いていると民家や商店から人が出てきて、見物したり食べ物をあたえたりしているのも見かけました。

現在では寺院や個人の家で飼われている象が多くなっているようです。お金持ちになって、大きな家を持ったり、外国製の高級車に乗ったりするのと同じように、象の個人オーナーになる事を夢見ている人も

少なからずいるそうです。ただし、象のオーナーになるという事は結構大変な事で、寺院では寄進物で賄えますが、1日に数十キロの餌(主に葉っぱや細い樹木)を確保し、それだけ食べれば出る物も沢山出るので、その始末もしなくてはなりません。象は水浴びが大好きなので水浴び場も必要になります。こうなると、象の世話をする専任の人も雇わなければいけません。かなりの手間と費用が掛かるのに、なぜ寺院や個人が象を飼うかと言えば、僕はペラヘラ祭りの存在が大きいと思っています。

寄り道になってしまいますが、ペラヘラ祭りについて説明しておきましょう。ペラヘラは「行列して歩く」というのが語源で、キャンディで7月～8月にかけて2週間に亘って行われるペラヘラ祭りが有名で、これがペラヘラ祭りと思われている方も多くいます。

実はキャンディの他にも、各地の寺院で規模の大小はありますが、ペラヘラ祭りが行われています。キャンディのペラヘラ祭りを例にとると、先導には鞭で地面を叩いて地の霊を鎮める鞭打ち隊、次に旗持ち、楽隊等が続きます。列の中盤には多数のキャンディアンダンスの踊り手が乱舞しながら続きます。そして行列の花形は、仏歯寺のご神体である仏陀の歯が入った黄金の祠を背中に乗せて運ぶ、絢爛豪華な衣装を纏った象です。

この象の前後に衣装を纏った沢山の象が行列を作ります。キャンディのペラヘラ祭り同様に各地で行われる行列の中心にはご神体を運ぶ象と、前後に繋がる象がいます。そして、ご神体をのせる象はその寺院が飼育している象が務める事が多いのですが、前後の象はその度毎に集められます。これに参加する事が象の個人オーナーにとって至上の喜びになります。ペラヘラ祭りの時期になると、象使いに連れられて祭りの開催地を目指して、道路をノンビリと歩いて行く象を見かける事があります。最近では象をトラックに乗せて移動する姿も多く見るようになって来まし



た。地方のペラヘラ祭りに参加して経験を重ね、電飾でギラギラした衣装にも慣れ、楽隊の音にも慣れ、たくさんの観衆に慣れてくると、地元だけでなく少し規模の大きなペラヘラ祭りに参加要請がくるようになります。

最終的にはキャンディのペラヘラ祭りに参加要請される事が最大の喜びになります。でも実際にはキャンディ等の有名なペラヘラ祭りに参加できるのは、何代にも亘って世襲で象使いを務めている人によって調教された象に限られるようです。それでも個人オーナー達は近隣で開催されるペラヘラ祭りに参加し続けて経験を重ねていきます。これは自分が金持ちだと誇るよりは、神事に参加できるようになれたと誇っているように僕は感じています。

すみません、寄り道が長すぎて象の孤児院までたどり着けませんでした。次号に譲ります。(続く)

【ご紹介】「アスティーさんの旅行記 スリランカ」

<http://4travel.jp/travelogue/10501695>

世界で一番盛り上がるのは何祭り!? INスリランカ  
～ペラヘラ祭り～

ペラヘラ祭りに興味のある方はどうぞご覧下さい。  
この旅行記の文末にあるリンク先にもスリランカを紹介している写真がたくさん掲載されています。

**使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を!**

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついでの折に田井にお渡し下さい。

◆わんりい HP 会員と関係者たちの楽しいエッセイ / 為我井輝忠さんのエッセイ・ケラニアだより、「キャンディのペラヘラ祭」<http://wanli-san.com/m-essay/tamegai/keraniya/2103-9.pdf> も併せてご覧ください。

《'わんりい' 掲示板》

◆わんりいの催し **ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう!**

- ◆動きやすい服装でご参加ください  
まちだ中央公民館・6F視聴覚室
- ▲2014年9月16日(火)、10月21日(火)
- ▲時間：10:00～11:30
- ▲9・10月の練習歌「花は咲く」
- ▲講師：Emme(歌手)
- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：15名(原則として)
- 申込み：☎042-735-7187(鈴木)  
E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(田井)



◆わんりいの催し **中国語で読む・漢詩の会**

- ▲場所：まちだ中央公民館・学習室7
- ▲月日：2014年9月28日(日)
- ▲時間：10:00～11:30
- ▲講師：植田渥雄先生  
(現桜美林大学孔子学院講師)
- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：20名(原則として)  
\*録音機をお持ちの方はご持参下さい。
- ◆申込み：☎090-1425-0472(寺西)  
E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)



◆まちだ中央公民館行き方：小田急線南口徒歩5分 / 横浜線ルミネ口徒歩3分 町田市原町田6丁目8-1 町田センタービル 109

◆わんりいの催し

**'わんりい' 秋の恒例! 手づくり月餅の会**

月餅3種類(小豆、ナッツ、カボチャ)をご一緒に作って頂きましょう!お土産付きです。  
年々、研究を積んで美味しくなる月餅です。是非、焼き立ての香ばしい月餅のご賞味を!

- ▲場所：まちだ中央公民館6F・調理実習室
- ▲月日：2014年10月17日(金) ▲時間：12:30～15:30(予定)
- ▲会費：1500円(会場費・材料代など\*お土産付き) ▲定員：先着15名
- ◆申込み：☎042-734-5100(わんりい) E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp



**[2014年9月の定例会とおたより発送日]**

- ◆定例会：9月15日(月) 13:30～ 三輪センター・第3会議室 ご連絡の上どなたでもお出かけください。
- ◆10月号のおたより発送日:10月2日(木) 10:30～ 三輪センター・第3会議室 お弁当を持参下さい。



## 雲南省昭通市魯甸大地震

# 新華社通信雲南支局発、地震直後の現地

記事と写真は新華社日本総局の了解のもとに掲載します

8月3日、雲南省昭通市魯甸<sup>ルーディエン</sup>でマグニチュード6.5の地震が発生し、直後の激震地付近では風景が一変した。山が崩れて変形し、道路は分断され、地上の建物は鉄筋の建物以外は崩れ落ち、移動している。元々は、山紫水明の地である龍頭山鎮は見渡す限り瓦礫の山と化し、多くの人命が瞬時に失われた跡をとどめている。一方、災害地・魯甸から巧家に通じる唯一の二級自動車道路には、四つの大きな裂け目が生じ、路面の半分は谷底に崩落している。その為に支援物資の輸送にも困難をきたしている。

地震発生後、すっかり変ってしまった激震地の様子を、新華社通信の陳海寧記者が撮影した。



↑ 激震地・龍頭山鎮は一瞬の揺れの後に  
廃墟の街と化した。倒壊を免れている  
のは比較的新しい鉄筋入りの建物。

↩ 3階建のこの建物は、1階部分が潰れ、  
2階建ての建物のように見える。





倒壊を免れた建造物は瓦礫の中で存在感がある



巨岩が地震で転がり落ちた村の道路



日干し煉瓦の自宅は危険家屋となり村の中の集団避難所に避難した会沢県紙廠郷江辺村在住の劉宗香さんは、毎日、数キロの山道を登って家に帰り、持ち出せなかった食料品で避難所に收容されていない住民のために炊き出しを行っている。



地震で破壊された山腹の建造物の脇をすり抜けて歩く



魯甸県火徳紅郷李家村に住む肖福香さん(66歳)の家は山崩れで全壊した。豚1頭を地震直前に売ったが、その代金・1000元を持ち出す間もなく被災し、肖さんは毎日避難所から、崩落した山道を何キロも登り、瓦礫に埋もれた1000元を探す為に、廃墟と化した家まで来る。



8月9日、5歳の尹順利ちゃん(左)は、魯甸県龍頭山の臨時避難所で、7歳のお兄ちゃん尹順成君の髪を洗ってあげた。



被災地の子供たちが普段と同じように遊んでいる。悲惨な状況の中で、僅かに心に安らぎを与えてくれる。🔖



## 雲南省昭通市魯甸・大地震

### 現地の一刻も早い復興を祈って、復興支援のカンパを送ろう！

皆様も既にニュースでご存知のように、8月3日、雲南省昭通市魯甸<sup>ルーティエン</sup>でマグニチュード6.5の大きな地震が発生しました。

地震直後の8月4日の発表では死者398人、行方不明者3人、負傷者1801人でしたが、8月8日の雲南省民政庁の発表では死者617人、行方不明者112人、負傷者3,143人と大きな被害が徐々に明るみに出てきました。

先日、日本雲南聯誼協会より、正式にこの度の地震被害地の復興支援の募金を始めるとの案内を頂きました。

日本雲南聯誼協会の活動につきましては後述するとして、日本でも東日本大震災をはじめとして家族や財産を失うような天災は後を絶ちません。その都度、思いもよらない突然の天災により被害を受けられた方々の喪失感はどんなにか深く辛いことかを想像し、多くの方がさまざまな思いを込めてカンパをしてきたと思います。

しかし、今回の雲南地震被害地は、四川省でも僻地といえる涼山彝族自治州に接した、中国の最僻地であることから地震災害への復興支援の窓口は限られています。会事務局での話し合いにより、日本雲南聯誼協会の呼び掛けに応じて‘わんりい’としても会員各位の善意の気持ちを被災地復興支援として届けたいと募金活動をすることにしました。たとえささやかな支援であっても、海外からの温かい励ましとして受け止めて頂けるに違いありません。皆様のご協力を心からお願いします。

募金は下記、3本柱を考えております。ご協力を得られ易いところで、協力をお願いできればありがたく存じます。集まった義援金は11月中旬に、そのまま日本雲南聯誼協会に託して被害地の教育分野の復興支援に充てる所存です。(田井)

①郵便局で振替用紙を頂き、ご自分の気持ちに添った金額をお振替ください。

(振替口座：00180-5-134011)

口座名義人：わんりい)

※送金には、80円～110円の手数料が必要です。ご了承をお願いします。

②‘わんりい’の講座や催しの際に、募金箱を設置します。気軽な金額でもよいですのでご協力をお願いします。

③催し(夢広場参加、料理講座や講演会)などで純益が出れば募金に充てる。

#### 〈日本雲南聯誼協会のこと〉

今年4月号より‘わんりい’の表紙を飾っている写真は、中国雲南省で教育支援の活動を展開している「認定NPO法人・日本雲南聯誼協会」から頂いたものです。

日本雲南聯誼協会は、活動理念として

- 1) 教育・雲南の少数民族の子どもたちが、安心して平等により良い教育を受けられるよう応援。
- 2) 文化・日本と雲南が互いに学び、支えあう為の架け橋となり交流。
- 3) 健康・雲南の人々のより良い暮らしのための応援。を掲げ、雲南省の山奥できわめて貧しく厳しい生活を送っている数多くの少数民族のために、50の小学校を建設する「50の小学校プロジェクト」を立ち上げるなど地道な活動が各方面で高く評価されています。

2012年10月に、町田市薬師公園内の「町田フォトサロン」で協会が開催の、「第3回 雲南の小さなカメラマン」展を拝見して以来、協会の、雲南省僻地の子どもたちへの温かな思いに溢れる活動を折に触れて知る機会もあり、雲南の人々の生き生きとした表情の写真で‘わんりい’の表紙を飾ったりのご協力を頂いています。

(文責：田井)

日本雲南聯誼協会について詳しい活動を知りたい皆様は、下記サイトでご覧頂ければと存じます。

キーワード：日本雲南聯誼協会

アドレス：<http://www.jyfa.org/>



## 山間の被災地を照らす明月

2014年8月15日

新華社通信雲南支局 / 記者・王長山の手記

8日夜、地震の犠牲者にとって“初七日”の前日、記者は同僚数名と共に、震源地・龍頭山鎮に入った。蒸暑いテントの中で手早く送稿を済ませ、テントの外へ出る。テントの外には、昇ったばかりの満月が山の端にかかり、被災地の痛々しい惨状をくっきりと照らしていた。

被災地取材する度に、心が震える。20年の記者生活で、多くの地震被災地取材し、数多くのドラマに遭遇して来たが、その折々の情景が、今なお心の底に留まっている。今また一面廃墟と化した地上に佇み、満月を仰ぎ見て、万感の思いは語る言葉を知らない。

8月3日午後4時30分。この時刻の前と後では、世界は一変してしまった。8月3日午後4時30分以前、この地は美しく静かな山村で、山椒の木が芳しい香気を放ち、水は清々と流れ、人々は豊かではないが安穏な生活を送っていた。しかし、この日のこの時間の、一瞬の揺れで山は動き、家屋は次々と倒壊し、600人を超える元気な命が、奪われてしまったのだ。

龍頭山・魯甸・巧家・会沢……これらの地名は、多くの人々にとって馴染みがなかったと思うが、一気に世界が注目する地名となった。当日夜、震源地の龍頭山は暴風雨に見舞われた。

その後、我々60名ほどの同僚が、余震・山崩れ・落石等数々の危険を犯して被災地を駆け回った。この間、我々は食糧・飲料水・寝る場所が無いという極限状態

を経験した。(中略) さまざまな苦勞を厭わず現場に出かけるのは、世界に被災地の実情を知らせる為であるが、悲惨な被害の現状に心はいつも試練を受ける。

村の王啓芬さんは、経営する葡萄園が平地になってしまい、そこにテントを張って被災民の避難所を設置した。彼は、“残念ではないさ。皆が被災したのだから、仕方が無いことだ”と話している。

或る村民は、廃墟の中から赤い表紙の2冊の“家系図”を掘り出して、胸の前にしっかりと抱きしめていた。“父親は地震で亡くなってしまった。家系図は、私にとって非常に重要な意味を持つものだ。衣服や家具等は、今の私にとって何の意味も無い”と彼は言う。村民の唐啓萍さんは、娘さんのパソコンを、娘さんと一緒に土の中に埋めた。

地震は、ここの平穏な生活を打ち壊したばかりでなく、我々の眼をこの地の貧困と環境の劣悪さにも向けさせる。

8日の夜、龍頭山鎮龍泉地区の広場に蠟燭の火が灯された。8月3日の地震で親族を亡くした人のいる地域の住民が自発的に集まり、赤い蠟燭を並べて大きな“ハート”形を作り、そのハートの中に更に蠟燭を並べて“8・3”と描き出した。

これからも生活していかなければならない。亡くなった親族に対する最高の<sup>はなむけ</sup>饞は、これからの日々を有意義に過ごすことであろう。

多くの救援作業従事者が、今も忙しく働いている。多方面からの援助もあり、この地に希望が見え始めている。暗闇の中、谷間に懸かる明月が、人々の前途を明るく照らしているように思えた。(完)

(翻訳：有為楠)



◆わんりいのお話の会

知ろう！世界の国々のこと  
「バルト3国を旅して」

参加無料



エストニア

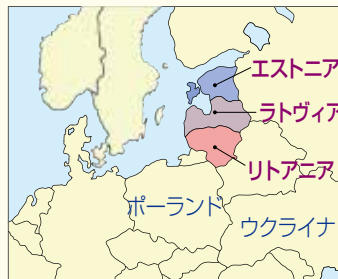


ラトヴィア



リトアニア

バルト海に面して並び、エストニア・ラトヴィア・リトアニアの3国は、あまり知られていない小国ながら、それぞれ複雑な歴史を持ち、全く異なる雰囲気を持った国々です。これらの国々はヨーロッパの秘境ともいわれ、名前は知っていてもどのような文化を持ち、人々はどのような生活をしているのか殆ど知られていないのではないのでしょうか。この夏、イギリス旅行の続きでバルト3国を1か月に亘って旅をされた為我井輝忠氏が、旅で撮りためた写真を紹介しながら、それぞれの国の印象をお話し下します。



- 町田市民フォーラム 3F・視聴覚室 定員：30名 参加：無料  
小田急線東口徒歩7分、横浜線バスターミナル口徒歩2分 〒194-0013 町田市原町田 4-9-8
- 2014年9月22日(月) 14:00～15:30 (開場 13:30)
- 講師：為我井輝忠氏 (講師紹介は同封チラシをご覧ください)
- 問合せ & 申込：☎ 042-734-5100 (わんりい)

第24回文化之日 印象青海～中国青海省民族歌舞団来日公演と青海省タンカ芸術展～(詳細、同封のチラシ)

- 青海省民族歌舞団公演 現地の民謡、舞踊、楽器、チベット演劇の一場面など
  - 公演日時：10月17日(金) 19:00～、18日(土) 13:30/18:30～、19日(日) 13:30～ 全4回
  - 入場料：1000円(前売 座席指定)※チケット取扱い e+イープラス：<http://eplus.jp> 直接購入：ファミリーマート
  - 会場：日中友好会館・大ホール(JR総武線飯田橋東口7分/都営大江戸線・飯田橋C3出口1分)
- 青海省タンカ芸術展 ● 会場：日中友好会館美術館
  - 会期：2014年9月26日(金)～10月19日(日) 10:00～17:00(火・休館)
  - \*但し初日は15:00開場 10月17日(金)18日(土)・19日(日)は上記公演終了まで開館
- ◆ 美術館イベント：9月26日(金) 15:45頃～タンカ制作実演  
10月1日(水)14:00～(約40分)古箏によるミニコンサート(要申込)/10月17日(金)12:00～(約20分)チベット族の歌と楽器演奏(無料)
- ◆ 主催：(公財)日中友好会館 ◆ 問合せ ☎：03-3815-5085日中友好会館・文化事業部



平成26年度(第69回)文化庁芸術祭主催公演

2014アジア オーケストラウィーク(詳細、同封のチラシ)

- 会場：東京オペラシティコンサートホール <http://www.orchestra.or.jp/aow2014/>  
10月5日(日)ノホーチミン市交響楽団(フィリピン) 15:00開演  
10月6日(月)ノキョンギフィルハーモニー 19:00開演  
10月7日(火)ノ名古屋フィルハーモニー交響楽 19:00開演
- S席3000円 ペア券(S席2枚)5000円 A席2000円 B席1000円  
3公演セット S席7000円 A席5000円 ▲いずれも全席指定
- 問合せ：日本オーケストラ連盟 ☎03-5610-7275(平日：10:00～18:00)



岡上中国語研究会新会員募集

中国語を中国人先生から直接聞いて話して勉強してみませんか？中国語初めての方大歓迎。直接見学も大歓迎。

- 毎週土曜日 10:00～12:00
- 麻生市民館岡上分館(215-0027 麻生区岡上286-1)
- 講師：劉冠群先生(北京出身)
- 会費：月謝4,000円
- 問合せ：☎044-988-2031(本間 ほんま)  
E-mail: tizm2008@jcom.home.ne.jp(いずみ いずみ)

初級中国語会員募集(見学歓迎)

中国語を中国人女性先生から初歩の手ほどきをします

- 毎月第2、第4月曜日、15:00～17:00
- 藤の台団地内「スペースつばさ」2F  
(〒194-0032 町田市本町田3486-1-50-111 藤の台ショッピングセンター内)
- 講師：張恰申先生(中国出身)
- 会費：1回ごと1,000円
- お問合せ：☎042-732-5081(吉崎12:00～17:00)